

# 第1章 U-CoRo プロジェクトを ふりかえって

巻頭レポート U-CoRoプロジェクトの5年間

—地域に根ざす身近な物語からつながりを紡ぐ試み  
弘本由香里



グループトーク .....

## Story 1 まちなかのプロフェッショナル

吉村健一さん 岸本知子さん 高田光雄さん

## Story 2 まちで育む子どもの未来

小谷真功さん 富士原純一さん 郭辰雄さん

## Story 3 水と緑の上町台地

六波羅雅一さん オダギリサトシさん

## Story 4 “ツルつなぎ”プロジェクト

森下正博さん 鈴木伸廣さん 中越慈子さん

## Story 5 “避難所”ウォッチング

浦野皖次さん 小西睦夫さん 吉見孝信さん

## Story 6 減災まちづくりの可能性

菅磨志保さん 浦野愛さん

## Story 7 つながりの防災・減災

渥美公秀さん 矢守克也さん

## Story 8 上町台地と言葉の力

秋田光彦さん 塙狼星さん 上田假奈代さん

# U-CoRoプロジェクトの5年間

—地域に根ざす身近な物語からつながりを紡ぐ試み

大阪・上町台地界隈をフィールドに、大阪ガス実験集合住宅NEXT21の一角を活用して取り組んできたU-CoRoプロジェクト。「上町台地まつり絵巻」の展示に始まり、子どもと遊びの今昔をたずね、緑の回廊や水脈をめくり、日常から減災へ思いを馳せるきっかけづくりや、地野菜の栽培と人の輪の広がり、まちなかのプロフェッショナル探訪など、地域に根ざす身近な物語からつながりを紡ぐ、5年間の試みをふりかえります。

## つながりを媒介する 地域資源の数々

大阪城付近を北端に、大阪市内中心部を南北に貫く上町台地。古代には四天王寺や難波宮が、中世から近世にかけては本願寺や大坂城、寺町が築かれるなど、まさに歴史の舞台そのものでした。また、近現代に入ると、多くの学校や医療施設が設けられ、都心居住の適地としても注目されています。近年は、多様な地域資源を再生・活用する動き

が顕著です。たとえば、空堀界隈の長屋再生、玉造界隈の伝統野菜の復興、寺院や神社を舞台にした文化活動やコミュニティ・サポート、新たなまつりの数々も生まれています。また、コリアタウンでの多文化共生の取り組みや、ゲストハウスでの多彩な人的交流なども見られます。

これらの地域資源のなかには、過去と現在、新と旧、自己と他者といった、異なる位置にあるものの交わりを促し、地域に潜在する課題の認識や、解決への力を育てていく可能性が宿っています。

■ 上町台地界隈の特徴的な地域資源の再生・活用等



## U-CoRoのウィンドウから つながりを紡ぐ

大阪ガスの実験集合住宅NEXT21は、まさにこの上町台地の中心部に立地しています。そこで、地域資源を媒介に、上町台地をめぐる身近な物語としてのコンテンツを、地域のみならずともにつくり上げ、伝えていくプロセスを通して、重層的に人と人、人と地域をつなぐを紡いでいこうという試みが、U-CoRoプロジェクトです。2007年春から5年にわたって、NEXT21の1階北側に設けた、U-CoRo（ゆーころ=上町台地コミュニケーション・ルーム）と呼ぶ小スペースを活用して実践を重ねました。

取り組みの手法はいたってシンプルです。4つの基本テーマ、①地域文化の再発見、②多世代・多文化共生、③減災文化の創造、④自然・環境の再

生を軸に、「まつり」「子どもと遊び」「いのちをまもる智慧」「伝統野菜」「コミュニティグリーン」「ものづくり」「水の縁」など、5年間で15の物語としてのコンテンツを地域の方々とともに作り上げ、ウィンドウ展示とともにワークショップや交流イベント等を展開しました。

たとえば、第1回の「上町台地まつり絵巻」では、新住民がまちの歴史・文化に触れる入り口として、春夏秋冬のまつりを絵巻のように紹介し、関係者の交流の機会もつくりました。第2回の「上町台地 子どもと遊び いま・むかし」では、3世代の居住者の子ども時代の遊び場を調査しマップに表現し、子どもたちとまちの交わりの大切さを考え伝える機会にしました。全15回の展示内容等は、当冊子の第2章にまとめて収録しています。詳細はCELのホームページでもアーカイブとして公開しています(\*1)。

## 始動期の評価から 展開期・浸透期の実践へ

実践の始動期1年目に、効果や課題を把握するための調査を行いました。コンテンツの提供に主体的に関わった方々へのヒアリング調査では、属性の異なる方々との出会いが課題解決の力につながる動きが見られました。一方、提供されるコンテンツを受け止める立場のNEXT21入居者へのアンケート調査では、生活の中での積極的な情報の活用は確認できましたが、新たなネットワークの形成等は容易でないこともうかがえました。

そこで、展開期では、さまざまな動機を喚起し、参加の間口を広げるテーマの設定や仕掛けの導入と、取り組みの背景やプロセスを見える化し、気づき・共感を誘発するツールの活用を試みました。

## 玉造黒門越瓜 “ツルつなぎ”プロジェクト —広がる人の輪

参加の幅を広げ共感を育むテーマや仕掛けの一つとして、上町台地の地野菜「玉造黒門越瓜（たまつくりくろもんしろり）」の復興に取り組まれている玉造稲荷神社とともに、栽培を通して人の輪を広げていくプロジェクトを手がけてきました。2008年に始まり、2009年、2010年、2011年、2012年と、学校・幼稚園、まちづくり拠点、ケア施設、社寺、商店、住宅など、話題を共有する栽培ポイントが徐々に増えています。栽培の様子や、収穫祭の様子、自慢の料理での交流の様子など、経験を共有できるように、ネット上の新聞形式でレポートしました。

### ■ U-CoRoプロジェクトの狙い

狙い  
組み  
手法

- 地域の物語としてのコンテンツづくりを媒介に、多様な人々の交流、人と人、人と地域の新たなつながりを育む
- 4つの基本テーマを軸に、地域資源の可能性を語るコンテンツを構成、ウィンドウ展示と関連するワークショップ・交流イベント等のプログラムを展開

### 実験集合住宅NEXT21



#### テーマ1：地域文化の再発見

上町台地に息づく歴史・文化からまちづくり活動まで、地域の魅力紹介など

#### テーマ3：減災文化の創造

都市防災・減災につながる生活文化づくり、暮らしの知恵の収集・発信など

### U-CoRo

〈上町台地コミュニケーション・ルーム〉

地域のみならず、NPOや行政、博物館や大学等と協働で、まちと暮らしをつなぐテーマ展示等を展開します

#### テーマ2：多世代・多文化共生

子どもから高齢者まで、多様な生活者のクオリティ・オブ・ライフの提案など

#### テーマ4：自然・環境の再生

都市における自然の再発見と、環境に配慮したライフスタイルの提案など

### ■ 上町台地をめぐる身近な物語としての15のコンテンツ

 <p>01 上町台地まつり絵巻 2007.2.5mon-2007.4.28sat</p>	 <p>02 上町台地 子どもと遊び いま・むかし 2007.5.14mon-2007.8.31fri</p>	 <p>03 「いのちをまもる智慧」を伝える 減災・まち30の風景と上町台地災害史 2007.9.3mon-2007.12.28fri*</p>	 <p>04 緑と鳥の回廊、上町台地 2008.1.21mon-2008.5.9fri*</p>	 <p>05 上町台地と なにわ伝統野菜物語 2008.5.19mon-2008.8.29fri*</p>
 <p>06 減災ゲームで気づく 上町台地の暮らしいろいろ 2008.9.16tue-2009.1.23fri</p>	 <p>07 春の日 上町台地で読みたい本 2009.1.26mon-2009.5.22fri</p>	 <p>08 上町台地 玉造黒門越瓜栽培 “ツルつなぎ” プロジェクト 2009.5.25mon-2009.9.4fri</p>	 <p>09 “減災キャラ” on 上町台地 の道程から 2009.9.7mon-2010.1.29fri</p>	 <p>10 まちで育む上町台地の子 2010.2.1mon-2010.5.28fri</p>
 <p>11 日常の楽園 上町台地 コミュニティグリーン紀行 2010.6.1tue-2010.9.10fri</p>	 <p>12 上町台地 もしも・いつもの “避難所” ウォッチング 2010.9.13mon-2011.1.28fri</p>	 <p>13 上町台地 まちなかの プロフェッショナル 2011.2.1tue-2011.6.30thu</p>	 <p>14 上町台地・水先案内 2011.7.4mon-2011.11.11fri</p>	 <p>15 U-CoRo 人絵巻 ~上町台地百人一句 2011.11.14mon-2012.3.30fri</p>

\*の展示は期間を若干延長しました。



## 日常の営みのなかに “減災”のコンテンツを埋め込む

また、“いのち”に関わる事柄でありながら、日常生活の中で置き去りにされがちな「防災・減災」を、いかに身近なものにしていくかという問題意識から、「減災文化の創造」を重要なテーマとして、一連のコンテンツ群の中に埋め込んでいきました。

まずは、全国の智慧に学んで、もしもの時に備え外の力とつながることを狙いとしたコンテンツ。被災地で培われてきた智慧を集めたストーリーブック『いのちをまもる智慧』（発行：(特活)レスキューストックヤード）を上町台地で紹介し、このツールの制作に携わった災害救援のNPOや専門家を上町台地のまちづくり関係者につなぎました。上町台地の災害リスクにも思いを馳せて、もしものときに備える外部との縁づくりです。

次に、阪神・淡路大震災の経験をもとにつくられた、減災ゲーム「クロスロード」(制作・著作：Team Crossroad〈網代剛、吉川肇子、矢守克也〉)を活用して、地域の内発的な気づきを誘発するコンテンツに取り組みました。上町台地境界の5つの特徴的な場所で、ワークショップを実施。もしものとき、さまざまな判断を迫られる体験を通して、当事者としての減災へのスイッチが入ります。ゲームが終わると、「災害時にお寺にできることは…」、「長屋のまちを未来に継承するには…」といったつぶやきが聞かれました。

こうした取り組みの波及効果として、地域のまちづくりの担い手と、外部の専門家が協働で減災について考えるイベントなどが、連鎖的に生まれてきました。その様子も共有できるように、ネット上の新聞形式でレポートしました。

さらに、身近な避難所体験を入りに、地域の防災活動に学んで、智慧とネットワークを共有するための、取材展示にも取り組みました。住商工一体のまちの緻密な避難想定と連携、ふだんの学校との付き合いの大切さ、都心の避難所が抱える問題、指定避難所以外の拠点の役割など、地域事情に応じた減災まちづくりの第一歩を知り、智慧を共有するきっかけとなる交流の機会も設けました。

## つながりの再デザインが開く 可能性・大切な回路

改めて15のコンテンツが物語る可能性をふりかえてみます。“まつり”からは、時空を越えてつながる生命と文化のダイナミズム。“伝統野菜”の栽培からは、風土とのつながり、経験の共有の実感。“減災”のネットワークからは、日常の生活文化としての減災文化のありよう。“子どもと遊び”からは、つながりの原点としてのまちや大人との交わり。さらにつながりのスタイルを媒介する“コミュニティグリーン”。人とまちをつなぐ“手仕事・ものづくり・なりわい”。いのちとなりわいを支える“水の縁”、過去・現在・未来をつなぐ“言葉の力”といった、可能性が見えてきます。

一連の実践を通して、大切にすべき回路にも気づかされました。1つ目は、自己と風土のつながりを日常のなかで耕していく回路。2つ目は、自己と他者のつながり、多様ないのちのつながりを、属性を越えて共有する回路。3つ目は、地域と外部のつながり、新たな気づきを促し、エンパワーメントの連鎖を生み出す回路。4つ目が、資源と地域のつながり、環境・福祉・文化・減災等一体の重層的なつながりの回路です。

## 東日本大震災を経て 改めて問われる地域の力

長屋の集積地、寺社の集積地、文教住宅地、マイノリティの集住地、マンション群など、さまざまな環境特性のなかにある、地域資源を見出し、そこにつながる再デザインのプログラムを導入していくことによって、「地域の力」を引き出していくことができなだろうか。U-CoRoプロジェクトを通して、多くの方々との協働の機会を得、惜しめない協力、共感に支えられながら、考えてきたことです。

「地域に暮らす自覚と愛着を育む力」「災害リスクに思いを馳せて備える力」「子どもの育ちを支える力」「単身世帯や高齢者の孤立を防ぐ力」「マイノリティを包摂する力」「過去に学び未来を思う力」など。東日本大震災から2年。激しいグローバル化の波、少子高齢化・人口減少の進行のなかで、改めて地域の力が問われています。

U-CoRoプロジェクトの5年間で行ったこと、つながりを紡ぐ端緒を中心にご紹介しましたが、言うまでもなく、できなかったことのほうが無限にあります。しかし、5年間の小さな試みから、さまざまな出会いと新たな物語が紡ぎだされてきているのも事実です。次ページからのグルーptークのなかで、課題も含めてご紹介しています。そこから続いていくつながりの物語を、みなさまとともに見つめ、育んでいくことができれば幸いです。

(大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所  
特任研究員 弘本由香里)

(※1) U-CoRoプロジェクトの詳細は、ホームページで紹介しています。<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/issue/cel/index.html>  
ウィンドウ展示や関連イベントは、U-CoRoプロジェクト・ワーキングが企画・運営しています。同ワーキング・コアメンバーは、弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所)、橋本護(B-train)、早川厚志(まちづくり工房)。デザイン・ワークは、北浦千尋(アセテート※2007年まで)、小倉昌美(B-train)。

### ■ 地域の力を引き出すつながりの再デザイン・プログラム

